



鶴居・伊藤 タンチョウ
サンクチュアリ
Tsurui-Ito Tancho Sanctuary

2021 Annual Report

2021年度活動報告書



表紙写真：秋山高志

活動報告

新たな野鳥保護区が誕生 平野・中嶋野鳥保護区チャンベツ
冬期自然採食地の餌資源量調査
団体ツアー客にタンチョウガイド

2021年度の概要

| | | |
|--------|------|-----------|
| 来館者数 | 調査回数 | 野鳥保護区 |
| 2,980人 | 194回 | 2,782.5ha |
| 賛助会会員数 | 給餌日数 | 最大飛来数 |
| 150人 | 136日 | 281羽 |

生息地を守る活動

私たちの野鳥保護区の隣接地を寄贈していただき、新しい野鳥保護区が設置されました。新規生息地では、地域の皆さんと連携して繁殖状況を把握しています。また、地域主体の保護活動への協力として、むかわ町で子ども研修会の講師をつとめました。



平野・中嶋野鳥保護区チャンベツ

日本野鳥の会のタンチョウ保護活動について

私たちは、法律で守られていないタンチョウの繁殖地を、土地の購入や所有者と協定を結ぶことで「野鳥保護区」として保全しています。現在、タンチョウのための野鳥保護区は23ヶ所、31つがいのタンチョウがこれらの保護区を利用しています。また、近年広がりつつある新たな生息地の保全も視野に入れ、活動しています。

重要な越冬地である鶴居村には保護活動の拠点を置き、シーズン中には毎日給餌を行ない冬期の餌不足を補っています。同時に、給餌に頼らないくらしのための環境づくりにも取り組んでいます。

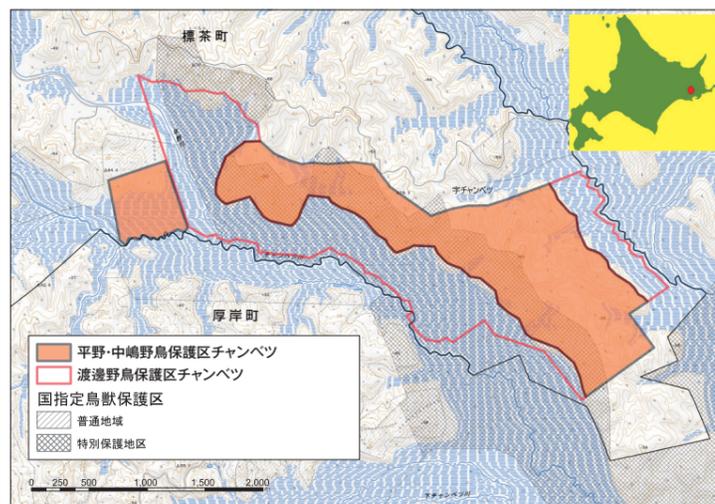
新たな野鳥保護区が誕生

平野・中嶋野鳥保護区チャンベツ

2021年3月に誕生した「厚岸霧多布昆布森国定公園」に含まれる私たちの渡邊野鳥保護区チャンベツ（以下、渡邊保護区）に隣接する319.5haの土地の共同所有者お2人より、北海道を通じて寄贈の話があり、お受けしました。保護区の名称はお2人と相談し、平野・中嶋野鳥保護区チャンベツ（以下、平野・中嶋保護区）となりました。



ドローンによる空撮(近景)



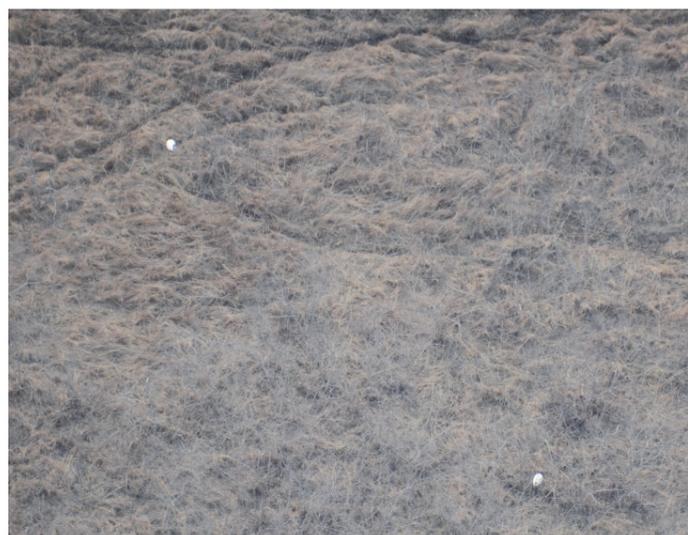
野鳥保護区区域図

国定公園指定を機に、自分たちの所有地を自然保護に活かしたいと考えられていたご主人が急逝され、奥様がそのご遺志を継ぐ形で今回の話に至りました。

私たちが設置した「渡邊保護区(216.3ha)」は飛び地となっていたため、今回のご寄付により、チャンベツの保護区535.8haを一体化して管理できます。

2015年の航空調査により、渡邊保護区では1つがいの営巣地が確認されました。今回の平野・中嶋保護区では隣接地に1つの巣が確認され、同保護区内を利用していると考えられました。また500m程離れた沢でも巣が1つ確認され、この一帯を3つがいが利用しています。

前回から10年後の2025年度に予定されている調査が、今から楽しみです。



2015年の航空調査の際に渡邊保護区の近接地で確認されたタンチョウのつがい

道央圏での取り組み

2021年度は、長沼町（舞鶴遊水地）、苫小牧市（ウトナイ湖・美々川流域）、むかわ町で幼鳥が観察され、秋には千歳市内で標識個体318（2017年むかわ育ち）が1羽の幼鳥連れで現れるなど、前年に引き続き4つがいの繁殖が確認されました。このうち3つがいで、計4羽の幼鳥が越冬期まで確認されました。



むかわ親子



318親子 ※写真提供:深沢博(むかわタンチョウ見守り隊)

私たちは、ウトナイ湖のレンジャーとともに道央圏の地域の方と連携し、情報共有に協力し、繁殖期のかく乱防止に取り組まれました。また10月には「むかわタンチョウ見守り隊」を中心に行なわれた生息状況調査に参加し、成鳥12羽、幼鳥4羽の計16羽が道央圏で確認されました。

むかわで5年ぶりに 子ども研修会



大きい!



思ったより軽い!



マスクを外して集合写真

10月31日に行なわれた「ネイチャー研究会inむかわ」主催の子ども研修会「知ってる? むかわのタンチョウのこと」では、レンジャーが講師としてむかわ町に招かれました。

まずは、タンチョウの大きさや重さを感じてもらうため、実寸大写真パネルのタンチョウとの背比べをしてもらったり、実際のタンチョウと同じ重さのぬいぐるみを持ち上げてもらいました。その後は、タンチョウの食べ物をゲーム形式で学ぶ「タンチョウの食べものなあに?」というプログラムを実施し、野生のタンチョウが何を食べているのかを伝えました。また、むかわのタンチョウの暮らしについては、○×クイズで楽しく学んでもらいました。

道央圏でいち早くタンチョウが定着したむかわ町。むかわ町の子どもたちは、タンチョウを通じて、自分たちの暮らす地域の自然の豊かさを感じていました。

生息地を守る活動 ～越冬環境の保全～

冬期自然採食地の餌資源量調査と整備事業を、ボランティアの皆さんの協力を得て行ないました。

また、行政が主催する関連会議に積極的にに関わり、運営にも寄与しています。



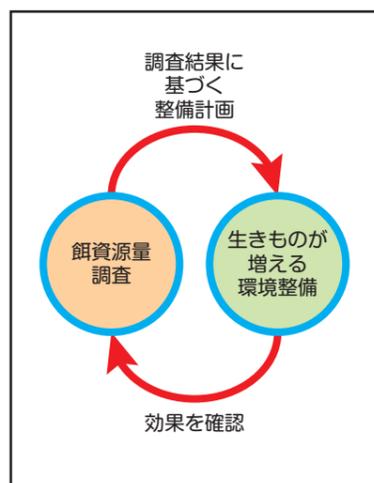
自然採食地「サンクチュアリ1号」を利用するタンチョウ (当会HP 自然採食地ライブカメラ 2022年2月15日15:45)

自分たちで行ないノウハウを蓄積

自然採食地の餌資源量調査を継続

これまでの自然採食地（以下「採食地」）整備は、タンチョウが出入りしやすくなるように不凍水域の藪や倒木を取り除く作業が中心でした。2020年度に実施した餌資源量調査の結果、現在の採食地の餌資源量は給餌量に比べはるかに少ないことが明らかになりました。そこで2021年度は、今後の整備方針を検討した上で、

- ①ある採食地を整備する際には、まず餌資源量を調査して、そこにいる生きものを把握する
 - ②その環境に適した生きものの数や種類を増やすような環境整備を行なう
 - ③その効果確認のための調査を行ない、整備方法を改善する
- これを繰り返すことで、餌資源となる生きものを増やし、給餌への依存度を下げられるように、以下の活動を行ないました。



今後の採食地整備のイメージ

中雪裡地区での調査

採食地「中雪裡1号」では、大学生の自然保護ボランティア団体「フィールド・アシスタント・ネットワーク（以下、F.A.ネットワーク）」の冬のワークキャンプで行ないました。厳冬期の2月は気温が氷点下で周囲は強風が吹く中、1段下がった川の中では風もなく、湧き水による水温は+4℃とまさに「川の中の方が温かい」というタンチョウと同じ感覚を味わいながらの調査となりました。



魚類調査の様子



「温かい」川の中での集合写真



トゲウオの仲間やハナカジカなどが確認された

サンクチュアリ隣接地での調査



早朝の調査風景



生きものの同定の様子

採食地「サンクチュアリ1号」では、社会人ボランティアの方と調査・同定を行ないました。給餌場に隣接するため、タンチョウへの影響を考え早朝に実施しました。



ヨコエビやマメゲンゴロウの仲間などが確認された

出入口の整備はJALのCSR活動で



出入口整備の作業風景



集合写真

同社による整備活動は、今年で6年目となります。今回は10人で上記「サンクチュアリ1号」で藪払いを行ない、その後、タンチョウの利用も確認できました。



現地には利用した足跡が

行政機関との連携

環境省タンチョウ保護増殖検討会WGへの参加

同省が主催するタンチョウ保護増殖検討会で設置された「タンチョウ分散計画見直しワーキンググループ」(WG)の委員に委嘱され、2013年度に策定されたタンチョウ生息地分散行動計画の見直し素案の作成協議に参加しました。



サンクチュアリ給餌場の様子

鶴居村タンチョウ共生会議



全体会議の様子

レンジャーが委員として参加する同会議では、「保護のあり方部会」で給餌場での適正な個体数について、また「地域振興部会」ではローカルルールについて協議が行なわれています。また「タンチョウ談話会（村教委主催）」では、村民向けに給餌場でのタンチョウの最新状況について報告しました。



談話会で報告するレンジャー

保護の輪を広げる活動

オンラインツールを活用することで、普及活動は新たな可能性が広がりました。感染症対策を徹底するため、入館人数を制限したネイチャーセンターでは、少人数に特化した対応で、より深くタンチョウの魅力伝えていきます。



第27回タンチョウイラスト展 応募作品



もっと知りたい、もっと守りたい！
タンチョウふあんクラブ

「タンチョウふあんクラブ」に入会して、私たちの活動を応援して下さい。年に2回お送りする通信紙では、もっと詳しい活動内容を知ることができます。

ご寄付についてもお気軽にお問合せ下さい。

お問い合わせ

0154-64-2620

(鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ)

【4月～9月】 土・日・祝休み / 【10月～3月】 火・水休み

タンチョウふあんクラブ会員証

公益財団法人
日本野鳥の会



公益財団法人
日本野鳥の会

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ賛助会

来訪者に伝えるタンチョウの魅力 団体ツアー客にタンチョウガイド

2021年度は、コロナの影響で旅行会社の団体ツアーは少人数での催行となりました。感染症対策のため、ネイチャーセンターを貸し切りにして団体ツアーの対応を行ない、今まで以上に丁寧にタンチョウのこと、保護活動のことを伝えました。

給餌場で目の前のタンチョウを見ながら

給餌場の柵越しにタンチョウを見ながら、レンジャーが解説を行いました。参加者が少人数のツアーでは、レンジャーが一方向的に説明をするだけでなく、一人一人の興味や疑問に向き合って、質問にも丁寧に答えることができます。野生のタンチョウを目の前に見て、その美しさや大切さに触れる時間は、まさにエコツーリズムです。



館内ではビデオを使って行動解説

館内では、モニターに給餌場のタンチョウを映し出して、リアルに繰り広げられる鳴き合いやダンス、子別れなどのタンチョウの行動を解説しました。ただ見ているだけでは分からない給餌場でのタンチョウの力関係や、つがいの絆、親子の情愛。タンチョウ特有の行動の意味が分かると、美しいだけではなくタンチョウの魅力を知ることができます。タンチョウの魅力伝えることで、保護活動への理解が深まりました。



新しい普及の形として定着したオンライン ニコモンクオンライン探鳥会 1/15

ニコモンク探鳥会は、当会普及室がバードウォッチングの楽しさを伝えるイベントです。コロナ禍でオンラインのイベントとなり、サンクチュアリで開催した「北海道でタンチョウウォッチング」には、日本全国から多くの方がご参加下さいました。厳しい北海道の自然の中で暮らすタンチョウの様子に感動した参加者からは、私たちの活動を後押しする、たくさんのメッセージが届きました。



オンライン支援者セミナー 2/11

日頃から当会の活動を支援して下さいの皆様、サンクチュアリのレンジャーが講師を務めるオンラインセミナー「タンチョウ保護活動の今」を、当会普及室のYouTubeチャンネルでライブ配信しました。タンチョウ保護活動の歩みや成果を、現場のレンジャーから直接聞くことができたと、たいへん好評でした。また、リアルタイムで届く激励や感謝の言葉は、オンラインならではの活動の励みになりました。



タンチョウの魅力や保護活動の大切さを、その姿を通して伝えることができるオンラインイベントに、今後も取り組んでいきます。

子どもたちの学びをサポート

未来を担う子どもたちへ自然の大切さを伝える活動に、地域の皆さんと一緒に取り組んでいます。

サルルンガードの湿原体験 7/31

鶴居村の子どもたちの自然体験活動グループ「サルルンガード（タンチョウコミュニティ主催）」の湿原体験は、国が元農地を湿原に復元する取り組みを進めている村内の「自然再生地」で行なわれました。湿原復元の手法を学んだ後は、再生地の上で飛び跳ねて揺れを感じ、その場所が湿原に戻りつつあることを体感しました。活動の最後には、タンチョウが営巣できる湿原に早く戻るようにと、みんなでヨシを植えました。



笑顔で記念撮影(右端2名がレンジャー)

KODOMO湿地交流 10/10・11/23

レンジャーが実行委員として関わっているKODOMO湿地交流では、鶴居村の子どもたちが、湿原を通じて他の地域の子供たちと交流する取り組みを続けています。4年目を迎えた長沼町の子供たちとの交流内容は、タンチョウのために整備した鶴居村の「冬期自然採食地」と、長沼町のタンチョウ繁殖地「舞鶴遊水地」での、「水辺のいきものさがし対決」。10/10、鶴居の子どもたちは、「冬期自然採食地」でタンチョウの餌となる生きものを採集し、その重さや種類を記録しました。

11/23のオンライン交流会では、まず、お互いの活動を発表し、採集した生きものの種類や量を比べて勝負しました。勝負は引き分けでしたが、子どもたちと一緒に「冬期自然採食地」の自然の豊かさを、再確認することができました。



必死に生きものを探す子どもたち

メディアを通じて情報発信

ニューヨークタイムス取材対応 3/3

ニューヨークタイムスの記者が、タンチョウ保護の歴史と現状を取材するため来道し、サンクチュアリでは原田チーフが対応しました。同紙の3月21日の紙面には、原田チーフのコメントとして「The second stage is to think about how we can help them to live on their own in nature (第二段階は自然界で自力で生きていけるようにする方法を考えること)」と掲載され、タンチョウ保護活動が新しい段階を迎えていることが、海外のメディアを通じて世界に発信されました。



ネイチャーセンターでの取材の様子

2021年度の主な活動



意見を交わす学生とレンジャー（ワークキャンプ）

4～9月

- 野鳥保護区巡回調査
- タンチョウの農業被害対策に協力
- オオジシギ生息状況調査
- シマアオジ調査
- 通信紙「ぴっけるぴっけ」発行（年2回）
- 道央圏でのタンチョウバンディング調査に協力
- 冬期自然採食地踏査
- F.A.ネットワーク
（大学生の自然保護ボランティア団体）主催の
ワークキャンプをオンラインで受け入れ



ねぐらの見える音羽橋での野外授業の様子
（標茶高校自然ガイド授業）

10～3月

- KODOMO湿地交流 川のいきもの探し・オンライン交流会
- JALの皆さんと冬期自然採食地整備
- 標茶高校自然ガイド授業講師（コロナ禍で実習は中止）
- むかわ子ども研修会講師
- 各種団体ツアー・学校対応
- オンラインでの探鳥会と支援者セミナー実施
（当会 普及室主催）
- タンチョウ餌づくり隊「コーン寄贈式」対応
- 給餌場での鳥インフルエンザ対策を実施

□■□ 表紙写真募集 □■□

本誌次年度の表紙写真を募集します。
応募者本人が撮影した、未発表のタンチョウの写真の
プリントもしくはデータをお送りください。

※繁殖行動などに影響を与える（与えた）と思われる作品は採用いたしません
※返却をご希望の方は返却先を記入して返信用封筒に切手を貼って同封してください
※絵でも可、要問合せ

住所・氏名（ふりがな）・連絡先を
明記の上、下記連絡先まで
・プリントの場合2Lサイズ程度
・データの場合解像度350dpi以上

しめきり 2023年3月31日



表紙：秋山高志



左から：櫻井レンジャー 原田チーフレンジャー 田中レンジャー

■鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリについて

1987年、日本野鳥の会はタンチョウとその生息域を保護するため、北海道鶴居村にサンクチュアリを作りました。設立には、全国からの寄付と地元で長年タンチョウ保護に貢献された故・伊藤良孝氏のご理解とご協力がありました。

サンクチュアリにはレンジャーが常駐し、冬季は毎日給餌を行っているほか、皆さまのご支援を元に様々な保護・調査・普及活動を展開しています。タンチョウの観察はもちろん、タンチョウの情報を得たり、オリジナルグッズを購入することもできます。



開館：10月1日～3月30日（火・水休み）※祝日の場合は開館
9：00～16：00 無料

閉館：4月1日～9月30日・12月26日～1月1日、3月31日

〒085-1205 北海道阿寒郡鶴居村字中雪裡南 TEL 0154-64-2620 FAX 0154-64-2239

✉ tancho_sanc@wbsj.org URL：https://www.wbsj.org/

タンチョウの
最新情報はコチラ

